

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

様々な背景を持った生徒が、社会の有為な人材となるような教育活動を実践する学校をめざす。

- 1 基礎学力をしっかりと身に付け、自信を持って「夢」や「志」を開拓できる生徒を育成する。
- 2 社会を生き抜く規範意識とマナーを持ち、社会に貢献できる多様な人材を育成する。
- 3 教職員が切磋琢磨しお互いに支え合い、生徒や保護者、地域から信頼される学びの場をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

ア コアな授業での基礎学力の充実・定着を図ることを主眼に、生徒の理解度を日々の小テストや復習などで検証しながら、生徒の実態に応じた教材の開発・工夫を絶えず行う。また本校独自の「桜学」を活用した授業改善についても研究をすすめる。

イ 授業力向上等検討委員会を核とし、教員相互の公開授業や研究授業及び研修会を実施する。また昨年度設立した「学校情報委員会」にてICTの効果的な活用や授業の研究・改善を組織的に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の肯定率 80%をめざす。

2 生徒の達成感や自尊感情を育み、夢の実現に向けた支援体制の確立

(1) 社会性と規範意識の確立と自尊感情の醸成

生徒が自らの行動を律することのできる人材となるよう、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。現在の挨拶運動は継続して実施する。

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率 80%をめざす。

(2) キャリア教育の充実と進路保障

ア 進路に対する動機付けが出来るよう、1年次から計画的にキャリア教育を実施する。また、卒業時の正規雇用希望者の合格率 80%以上をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する項目における肯定率 80%をめざす。

イ 就職・進学につながる様に担当教科が指導を行い、各種検定の合格者の総計は 10 名を目標とする。

(3) 行事や生徒会活動、部活動を通じて集団の中で調和しながら活動できる能力を育成する。

各種行事の出席率は 60%を目標とする。また、クラブ加入率は 50%を目標とする。

(4) 中途退学者と留年者の減少

保護者や関係機関との連携を強化するとともに、昨年度設立した「生徒支援委員会」を活用し、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができる体制を確立する。また、生徒情報の共有を確かなものにし、生徒理解を深め、(在籍のみの生徒を省く) 中途退学や留年の防止に努める。

※ 新入生の進級率 62%以上を目標とする。

3 開かれた学校運営と地域連携

(1) 全教職員が学校経営に参画しているとの自覚を持ち、組織の向上のために忌憚のない意見交換が出来るよう環境を整える。

(2) 地域連携を進め、地域に理解され、地域から信頼される学校をめざす。

ア 豊中市立各中学校を中心に中学校訪問や中高連絡会を行い、連携を進める。

イ 豊中市役所、豊中警察署、少年サポートセンター、子ども家庭センター、豊中保健所等の外部機関との連携を行い生徒の健全育成に役立てる。

ウ 学校協議会と振興会の活性化を即し、積極的な意見を述べてもらう。

エ HPの充実を図る。

※教職員向け学校教育自己診断の地域連携に関する項目における肯定率 80%をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【概略】 生徒・保護者・教職員共、数項目を除いて肯定的な意見が 80%を超えており、本校の教育活動が総体的に肯定的に捉えられている。学校の根幹である「魅力ある学校」では生徒の肯定は 90%、保護者 95%、教職員 100%となっており学園生活の充実を示している。また、本校への進学理由で生徒は「高校卒業資格取得」65%「基礎学力」37%「一般教養」35%「進学・就職のため」34%と続き、昨年とほぼ同様の順位である。対して教員は「基礎学力」79%「社会性」71%「一般教養」71%と続き、こちらも昨年とほぼ同様である。また、「家庭の悩みなどのケア」昨年比 23%増は本校生の生活背景の複雑さを物語っている。</p> <p>【学習指導等】 本校では、数学などの少人数指導を始め、「桜学」や各教科で独自の教材を作成し、丁寧に細やかな授業を展開している。このことは授業見学の際によく分かる。「授業に工夫」の肯定は、教員は 100%だが生徒は 85%に留まっている。この差を埋めるには生徒自身の学習や理解への努力を期待すると共に、教員の更なる取組みを期待したい。</p> <p>【生徒指導等】 「気軽に相談できる」「話を聞いてくれる」の肯定は、生徒はそれぞれ</p>	<p>【第1回 7月15日(木)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ネパール震災復興支援募金活動に関し、自治会が主体となり、募金をよびかけた結果、総額 46,471 円が集った。 → 机を並べて共に勉強している級友の心の痛みを察して、生徒が中心となって活動できることが素晴らしい。この気持ちが今後持続することを願う。 ○ 中学校教員の本校定時性課程授業の見学に関し、今後中学校校長会で検討を行う。 → 他の学校の教員や府教委の視察でも、落ち着いた雰囲気での授業が成立していると好評を得ている。2回目の授業見学に合わせて、中学校に案内をしたい。 ○ 夜間中学校との連携を促進してはどうか → 近郊の夜間中学は 1 校しかない。そこからは例年希望者がいるのでパイプは出来ている。成人者に関しては公民館に学校案内を置かせてもらうことになった。 ○ 本校に興味を持ちやすいよう張り紙を張るなどして情報発信をしてはどうか → 考慮したい。(その後、阪急沿線豊中・岡町・曾根の 3 駅に入試前の一カ月間ポスターを貼らせてもらうことになった) ○ 他校の退学者に向けてのアピールを進めてはどうか → 高校間で情報は共有しているので、十分と考える。 ○ 本校に来て初めて友達ができた等の体験談を外に向けて発信してはどうか

80%、90%に対し、教員は各々100%と高い。教員がカウンセリングマインドを持って対応している様子は日々見ており、生徒と教員とのコミュニケーションは十分に取れている。自ら胸襟を開けない生徒のサインは見逃さないように努めることが必要である。「納得できる生徒指導」の肯定は、生徒は86%、教員は93%である。記述項目で、日常の規律へのより厳しい要望が生徒・教員双方に見られる。今後の課題である。

【進路指導】

「納得できる進路指導」の肯定は、生徒は86%、教員は93%と高く、生徒にとって指導が充実していることが分かる。今後も更に、生徒のニーズを尊重し、指導の充実に努めていく必要がある。

【学校運営】

「准校長のリーダーシップ」の肯定は100%「教職員の学校運営への積極的参加」及び「教職員間の信頼関係」は93%と教員の評価は高く、基本的に学校運営が順調に行われていることが分かる。

今年度、「火災対応の教職員研修・校内設備状況確認」において、避難の際に車椅子を使う障がい者や高齢者の動線の確認や対応を研修した。また、避難訓練の際には「備蓄米試食体験」を行った。その結果「防犯・防災」に関する肯定が昨年比11%UPし71%となった。

「各部・分掌・学年間の連携」が大幅に落ちたのは、複数教員の病休や急遽の分掌長の変更による影響があると思われる。また、「外部への理解」が57%と昨年比10%減となっているのは、HPの整備状況や生徒を使つての広報の場面が少なくなったことによるとと思われる。その後、阪急沿線での夜桜ポスター掲示の許可を得たことはその改善につながると考える。

→ 考慮したい。(その後、夜桜卒業生のコメント集を中学校に配付出来た)

○ 本校生徒の幅広い年齢層をアピールしてはどうか

→ 既に、本校の特徴の一つとしてアピールしている。

【第2回 10月15日(木)】

時間の都合もあり、文化祭見学が中心となった。その後の意見交換。

○ 3D Mapping はグラウンドの照明が消えていけば、もっと鮮明に見ることができたのではないか。

→ 照明なしのグラウンドは危険であるとの認識があった。しかし、2度目に消した結果、これほど視覚的な効果が得られるとは思っていなかった。

○ タブレット型PCで作成した情報実習・研究の作品ということで、タブレット型PCの必要性を実感した。

→ H25年には、「学校経営推進費」で電子黒板やタブレット端末の購入が出来たが、量的に不十分な状態で終わっている。府教委にも継続して申請するが、学校協議会や振興会からの援助もお願いしたい。

【第3回 2月16日(火)】

○ 学校教育自己診断の結果を見て、定時制の実態がよく分かった。中学校校長として該当生徒には、夜桜への進学を勧めたいと考えている。

○ 障がいがある生徒に対する特別支援はどのようになされているのか。

→ 昨年度に校内に「生徒支援委員会」を設立し、今年度から支援コーディネーターを配置し動き始めている。これまでは担任が主としてそのような生徒の支援と指導を行ってきたが、今後は組織として対応する。

○ 給食はどうしているのか？

→ 喫食率が低いことから、来年度より休止することが決定している。定時制15校中11校が休止である。(再開はないだろう。)

○ 桜塚高校定時性課程への入学条件はあるのか？

→ 高等学校卒業者は入学することができない。

○ 女子生徒の登下校指導はどのようにしているか？

→ 不審者情報が寄せられた場合には生徒に周知し、登下校時には十分注意するよう指導している。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア 授業力向上等検討委員会と各教科の連携による教材の開発・工夫</p> <p>イ 公開授業と授業アンケートを活用した授業改善の推進</p> <p>ウ ICT を活用した研究授業による授業改善の推進</p>	<p>ア・首席を中心とした授業力向上等検討委員会と各教科の連携で、生徒の実態に応じた教材の作成をする。</p> <p>・「桜学検討委員会」にて、本校独自の進路実現に向けた教科横断型の体験的な要素を取り入れた授業モデルを作成する。</p> <p>イ・首席を中心とした授業力向上等検討委員会で企画した公開授業（6月、11月）に合わせ、教員相互の授業見学週間を設定し、積極的な参加を促し他の授業への助言を求める。また授業アンケート（7月、12月）の1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。</p> <p>・第2回目の教員相互の授業見学後には、授業改善のために全員参加の研修会を実施する。</p> <p>ウ・「学校情報委員会」が核となり、ICT を使った効果的な授業方法を検討し、その公開授業も実施する。</p>	<p>全て学校教育自己診断の数値：() は H26 の実績</p> <p>ア・生徒の理解度の肯定率 80%以上</p> <p>イ 全教員による1回以上の授業見学の確認。</p> <p>教員向けの授業における工夫項目の肯定率 85%以上 (97%)</p> <p>ウ 生徒向けの授業項目の肯定率 80%以上 (84%)</p>	<p>ア・各教科では本校独自の教材を開発している。特に少人数展開の数学や、総合の『桜学』では年々の教材ストックが顕著である。これにより生徒の理解度が84%と大きく貢献している。(◎)</p> <p>・T-NET も好評。生徒の肯定率は72% (◎)</p> <p>イ・2度目の授業見学後4班に分かれて全員参加の研修会を実施。今回は多忙でも全員が授業見学できるよう、研修対象授業をビデオで撮影。(◎)</p> <p>・教員の授業工夫の肯定率は100%に達した。(◎)</p> <p>・授業アンケートは、個人単位で返却し管理職の授業観察と共に工夫の材料とさせている。(○)</p> <p>ウ「学校情報委員会」は、全教員が役割を分担担当している。特に「授業の情報化」や「情報モラル教育」での取組みは活発である。HP での情報発信マニュアルは完成。不登校生徒への対応には今年度導入したインターネットサービスで検討中。(◎)</p> <p>生徒の授業項目の肯定率 86% (◎)</p>
2 生徒の達成感や自尊感情を育み、夢の実現に向けた支援体制の確立	<p>(1) 社会性と規範意識の確立と自尊感情の醸成</p> <p>(2) キャリア教育の充実と進路保障</p> <p>(3) 行事や生徒会活動、部活動を通じて集団の中で調和しながら活動できる能力を育成する。</p> <p>(4) 中途退学者と留年者の減少</p>	<p>(1) 遅刻しない、欠席の際には事前に担任に連絡する、人の話を静かに聞く、言葉使いに気をつける等、社会性と規範意識の確立をめざす。登校時の教員との挨拶運動は継続。</p> <p>(2)</p> <p>・1年次から計画的に進路指導部と学年が主体となりキャリア教育を実践する。</p> <p>・外部講師の講演を積極的に実施し、進路に対して希望の持てる動機付けを行う。</p> <p>・各種の資格試験に挑戦し合格することで、生徒に自尊感情や自己肯定感を獲得させ進路指導につなげる。</p> <p>(3)・部活動に参加し、仲間意識を育むことにより、生徒に達成感や自尊感情を感じさせる</p> <p>・生徒会活動に参加し、地域と交流することで、本校への帰属意識や連帯感を高める。</p> <p>・各種学校行事への参加を促し、仲間意識と帰属意識を高める。</p> <p>(4)・全生徒との面談、保護者との対話、家庭訪問、電話連絡などを通じ、一人ひとりに対してきめ細かく生徒と対応する。</p> <p>・昨年度新設した「生徒支援委員会」を効率的に活用し生徒の支援に努める。</p>	<p>(1) 生徒向けの規範意識の項目の肯定率 80%以上 (85%)</p> <p>(2)</p> <p>・生徒向けの進路指導の項目の肯定率 80%以上 (85%)</p> <p>・卒業時の正規雇用希望者の合格率 80%以上をめざす。</p> <p>・各種の資格試験の合格者数の目標を10名以上 (15名)</p> <p>(3)・部活動加入率 50%以上 (63%)</p> <p>・各種行事への参加率 60%以上 (66%)</p> <p>(4)・新入生の進級率 62%以上を目標とする。</p> <p>・生徒向けの本校に対する満足度の項目の肯定率 80%以上 (90%)</p>	<p>(1)・中学校教員、府教委や府の視察等でも落ち着いた雰囲気の中で本校の授業が成立していることへの賞賛の声が多い。集会の際にも生徒にその反応を告げ、生徒の姿勢を褒めている。(◎)</p> <p>・「あいさつ運動」の幟を立て、登校時に教員が挨拶を交わしている。また集会の度に准校長として『言葉使いの大切さ』について触れている。</p> <p>該当項目の教員肯定率 93%、生徒 79%。(○)</p> <p>(2) キャリア教育は1年次から「桜学」や LHR で展開。また進路部と学年が主体となりハローワークとも連携。今年度は早期の進路動機付けとして2年全員を「進路フェスタ」に参加させた。現在大学等5名合格。就職内定7名。無就労率は15%。(○)</p> <p>生徒の進路項目の肯定率 86% (◎)</p> <p>・情報処理検定3名、英検1名、数検1名合格 (△)</p> <p>(3) 部活動加入率は50% 全国大会、近畿大会には陸上部がそれぞれ4名出場 (◎)</p> <p>・各種行事への参加率は70%。生徒秋季発表大会での『生活体験発表』では校長協会定通部会賞を受賞。芸術系作品は有孔ボードで掲示し、生徒の自尊感情の高揚に寄与している。(◎)</p> <p>(4)・保護者とは細かく対応し、退学は6名。</p> <p>・「生徒支援委員会」は支援コーディネーターを中心に機能し始めた。(○)・1年は学校への定着の為、夏休みに登校日を設置し、新入生の進級率 72% (◎)</p> <p>生徒の本校に対する満足度は 90% (◎)</p>
3 開かれた学校運営と地域連携	<p>(1) 全教職員が学校経営に参画しているとの自覚を持ち、忌憚のない意見交換が出来るよう環境を整える。</p> <p>(2) 地域連携を進め、地域に理解され、地域から信頼される学校をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>・職員会議で自らの考えをはっきりと述べられるように教職員に働きかける。</p> <p>・「職員連絡会」を有効に使い、情報の早期共有をめざす。</p> <p>・必要に応じて委員会・分掌の再編をする。</p> <p>・教員には出来るだけ任せ責任感を育てる。</p> <p>・教職員の防災・防犯に関する知識の再確認と研修を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 豊中市立各中学校を中心に中学校訪問や中高連絡会を実施し連携を進める。</p> <p>イ 豊中市役所、豊中警察署、子ども家庭センター等の外部機関との連携を行い生徒の健全育成に役立てる。</p> <p>ウ 学校協議会と振興会の活性化を即し、積極的な意見を述べてもらう。</p> <p>エ HP の充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>・教員向けの学校運営に関する項目の肯定率 80%以上 (83%)</p> <p>・教職員向けの防災・防犯に関する項目の肯定率を 63%以上 (60%)</p> <p>(2)</p> <p>・中学校訪問と中高連絡会を2回実施し本校の実情を知らせる。</p> <p>・教員向けの地域連携に関する項目の肯定率 80%以上 (67%)</p>	<p>(1)・教員へ「夜桜の生徒募集への提言」を募り、「公民館等への学校案内」「夜桜先輩のコメント発信」「中学教師の授業参観」などを実施した。(◎)</p> <p>・「職員連絡会」機能しているが長いのが難点。(○)</p> <p>・管理職の感性和齟齬があっても出来るだけ尊重し任せ、教員に達成感を持たせている。(◎)</p> <p>・自殺防止の研修に急遽切り替え実施。(◎)</p> <p>学校運営肯定率 96% (◎) 防災・防犯は 71% (◎)</p> <p>(2) ア 新入生中心と在校生中心の中学校訪問を2回実施。中高連絡会は9月に実施し情報交換を深めた。2回目を2月25日に実施。(◎)</p> <p>イ 全国大会出場の選手は豊中市長の激励を受けて出陣、広報誌に掲載。(○) 豊中市との共催「食育講座」は2月13日にガス社を加えて継続実施 (◎)</p> <p>ウ 第2回学校協議会は3D Mapping を核とした文化祭の見学で好評であった。振興会も同様。(◎)</p> <p>エ 生徒募集に寄与する為、豊中・岡町・曾根の3駅に、夜桜ポスターを貼らせてもらう。(◎)</p> <p>教員の地域連携に関する項目の肯定率:57% (△)</p> <p>【今後の課題】地域連携への生徒の活用</p>

